



Title	「欧州剣士に関する実態調査研究」
Author(s)	平川, 信夫
Citation	明治大学教養論集, 200: 25-54
URL	http://hdl.handle.net/10291/12199
Rights	
Issue Date	1987-03-01
Text version	publisher
Type	Departmental Bulletin Paper
DOI	

<https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/>

「欧州剣士に関する実態調査研究」

平 川 信 夫

I. はじめに

日本古来の伝統文化である剣道が異境の地ヨーロッパに普及発展し、その普及度は近年着実に隆盛の一途を辿っている。

これまでに私は外国剣士の実態と傾向をさぐり、今後の正しい国際化への普及発展のための基礎資料を得るべく、意識調査や大会出場者の試合内容などの調査分析を続けてきた。

今年でヨーロッパ剣道選手権大会も第7回を迎え、去る4月19・20日の両日イギリスの首都ロンドンにあるスイスコテージスポーツセンターにおいて開催された。

そこで、今回は大会出場者の体格を中心とした内訳や練習の設備環境条件などを調査し分析を試みた。

II. 研究方法

調査は記述式による質問紙法で行った。

調査対象は表一1の通り、大会参加9ヶ国（オーストリア・ベルギー・フランス・西ドイツ・オランダ・スペイン・スウェーデン・スイス・イギリス）であり、調査数は男子76名、女子1名の合計77名である。

表-1 〈各国別回答者数及び性別〉

国名	人数	男子	女子	合計
オーストリア		4	0	4
ベルギー		12	0	12
フランス		10	0	10
西ドイツ		8	0	8
オランダ		7	0	7
スペイン		7	0	7
スウェーデン		12	0	12
スイス		7	1	8
イギリス		9	0	9
9ヶ国		76	1	77

調査期間は1986年4月19・20日の両日である。

調査項目の内容は出場者の段位・年齢・職業・出場者の体格として身長・体重・胸囲・足のサイズなど・剣道スタート年齢及び修業年限、所属する道場名とその道場の稽古回数及び稽古時間、得意技と不得意技、所属する道場の床の材質とそのコンディションの状態、所属する道場の人数と有段者数の内訳、道場までの利用交通機関とその所用時間、剣道を志す前の他スポーツの経験の有無と現在の状況、防具と竹刀の入手方法、各種試合経験と来日経験の有無などである。

III. 結果と考察

調査結果を順を追って考察してみると、

- 1) 各国別の取得段位およびその人数について表-2を参照にしながらみると、有段者数は77名中69名（内女子1名）で最高段位は5段で5名、最低は無段の8名である。2段が最も多く19名で24.7%、つづいて3段の17名で21.1%となっており、4段以上は18名の23.3%となっている。

全体の平均は2.4段で、前回の第6回ヨーロッパ選手権大会の平均2.1段

表-2 〈各国別取得段位及び人数〉

国名	人数	5 段	4 段	3 段	2 段	初 段	無 段	合 計
オーストリア		0	1	0	1	1	1	4
ベルギー		0	2	1	3	5	1	12
フランス		3	3	4	0	0	0	10
西ドイツ		0	2	3	2	1	0	8
オランダ		0	1	0	4	2	0	7
スペイン		0	1	1	2	2	1	7
スウェーデン		0	0	2	3	3	4	12
スイス		1	1	0	4 ₍₁₎ 女	1	1	8
イギリス		1	2	6	0	0	0	9
9ヶ国		5	13	17	19 ₍₁₎ 女	15	8	77
%		6.5	16.8	22.1	24.7	19.5	10.4	100.0

(平均2.4段)

よりわずかに上昇している。しかし第6回世界大会（パリ）の平均2.8段よりも低い傾向を示している。また、国別にみるとフランスとイギリスの両国は全員が3段以上となっているのに対して、スウェーデンは全員が3段以下となっており、その内無段が4名含まれるという結果となっている。

- 2) 各国別の年齢構成について表-3を参照にしながらみると、最年長はオーストリアの47歳で最年少はスイスの17歳である。

また30～34歳迄が最も多く32.5%と全体の約1/3を占めている。

40歳以上が7名9.1%で、19歳以下は8名10.4%となっており、全体の平均年齢は29.7歳である。これに前回の第6回大会の平均29.5歳よりも0.5歳高い傾向となっている。しかし第6回世界大会の平均30.64歳に比べるとわずかに若い傾向を示している。

また国別にみると、イギリスが最も高齢で36.4歳で全員が30歳以上であり、これに対してスウェーデンが最も若く24.8歳であった。

表-3 〈各国別の年齢構成〉

年 令 国 名	年 令						合 計	平均年齢
	40歳以上	39～35	34～30	29～25	24～20	19歳以下		
オーストリア	1	0	2	0	0	1	4	32.5
ベルギー	3	1	2	2	3	1	12	30.0
フランス	0	0	7	1	2	0	10	30.2
西ドイツ	0	0	1	5	1	1	8	25.6
オランダ	0	0	3	4	0	0	7	28.7
スペイン	1	0	1	3	2	0	7	28.7
スウェーデン	0	0	2	4	2	4	12	24.8
スイス	0	2	5 ^女 ₍₁₎	0	0	1	8	30.8
イギリス	2	5	2	0	0	0	9	36.4
計	7	8	25 ^女 ₍₁₎	19	10	8	77	29.7歳
%	9.1	10.4	32.5	24.7	12.9	10.4	100.0	

フランスは30.2歳と前回大会よりも2歳、同じく西ドイツは3歳若返っている。即ち、フランスと西ドイツはメンバーも数多く徐々に世代交代が行われている結果からこのような傾向があらわれたのに対して、イギリスにおいては全員が30歳以上で前回よりも逆に4歳も高くなり、最も高齢の傾向となっているのは後継者養成が著しく遅れている結果と推察される。

- 3) 各国別の職業について表-4を参照にしながらみると、非常に広範囲にわたっているが集約すると会社員が最も多く15名19.5%、つづいて学生の14名18.2%となっている。これらの傾向は前回の会社員と学生が最も多く各16名17.98%と殆んど変らぬ傾向を示している。しかし、つづく技師（電気・機械・建築など）は14名15.73%から10名13.0%に減少した。その他教員、学者と公務員（銀行員・郵便局員・鉄道員・事務員など）が技師と同様の13.0%となっており、さらに芸術家・小説家・写真家・室内装飾家・俳優・著述業などが合せて10.3%となっている。

表-4 〈各国別の職業〉

職 業 国 名	学 生	教 員・ 学 者	技 師	会 社 員	公 務 員	医 師	芸 術 家・ 小 説 家	室 内 装 飾 著 述 業 写 真 家・ 俳 優	自 営	そ の 他	合 計
オーストリア	0	0	0	0	1	0	1	2	0	4	
ベルギー	3	2	2	2	2	0	1	0	0	12	
フランス	1	2	1	3	2	0	0	1	0	10	
西ドイツ	4	1	1	1	0	1	0	0	0	8	
オランダ	0	3	0	1	0	0	3	0	0	7	
スペイン	1	0	1	1	1	1	1	1	0	7	
スウェーデン	4	1	2	2	1	0	2	0	0	12	
スイス	1	0	2	1	1	0	0	1	2	8	
イギリス	0	1	1	4	2	0	0	1	0	9	
計	14	10	10	15	10	2	8	6	2	77	
%	18.2	13.0	13.0	19.5	13.0	2.6	10.3	7.8	2.6	100.0	

自営は6名7.8%で道場経営者はフランスの1名のみである。

また、日本で多い警察官が全くみられないのが注目すべき傾向である。

全般的には前回に比べて大きな変化はなく、殆ど同傾向の内容を示していた。

- 4) 各国別の身長について表-5を参照にしながらみると、最高は西ドイツ・ヘネマン選手の198cm、最低はベルギー・デュボン選手の160cmである。

180~184cmが29名・37.7%と最も多く、つづいて175~179cmの21名27.3%であり、190cm以上が7名9.1%。169cm以下は4名5.2%しかおらず、全体の平均は179.7cmと非常に大型である。

また、国別では最も高いのはオーストリアの183cm。つづいて西ドイツの182.9cm、スウェーデン181.9cmとなり、最も低いスイスでも176.2cmであった。

表-5 〈各国別の身長〉

身長 国名	190cm 以上	189 ~185	184 ~180	179 ~175	174 ~170	169cm 以下	合 計	平均 (cm)
オーストリア	1	2	0	0	1	0	4	183.0
ベルギー	1	1	2	4	1	3	12	176.5
フランス	0	0	6	4	0	0	10	178.9
西ドイツ	1	0	6	1	0	0	8	182.9
オランダ	2	0	1	2	2	0	7	180.0
スペイン	0	0	5	2	0	0	7	179.6
スウェーデン	2	3	2	4	1	0	12	181.9
スイス	0	1	2	2	2	1 _{女 (1)}	8	176.2
イギリス	0	0	5	2	2	0	9	178.2
計	7	7	29	21	9	4 _{女 (1)}	77	179.7
%	9.1	9.1	37.7	27.3	11.6	5.2	100.0	

表-6 〈各国別の体重〉

体重 国名	100kg 以上	99~95	94~90	89~85	84~80	79~75	74~70	69kg 以下	合計	平均 (kg)
オーストリア	0	0	0	2	1	0	0	1	4	80.0
ベルギー	1	0	0	0	1	2	3	5	12	78.8
フランス	0	0	0	0	2	5	3	0	10	76.7
西ドイツ	0	0	0	1	4	2	1	0	8	79.8
オランダ	0	0	1	1	0	3	2	0	7	78.6
スペイン	1	0	0	2	0	2	2	0	7	80.9
スウェーデン	0	0	0	0	4	2	4	2	12	75.5
スイス	0	0	0	1	0	1	5 _{女 (1)}	0	7	73.8
イギリス	0	0	1	1	2	2	3	0	9	78.9
計	2	0	2	8	14	19	23 _{女 (1)}	8	77	78.1
%	2.6	0	2.6	10.5	18.2	24.7	29.9	10.5	100.0	

5) 各国別の体重について表-6を参照にしながらみると、最重量はスぺイ

ン・テンデ選手の103kg。逆に最軽量はベルギー・デュボン選手の55kgである。

70～74kgが23名29.9%と最も多く、つづいて75～79kgの19名24.7%であり、80～84kgは14名18.2%、100kg以上が2名2.6%。69kg以下は8名10.5%であった。

また、全体の平均は78.1kgである。

さらに国別についてみると最も重いのはスペインの80.9kg。つづいてオーストリアの80kgであり、西ドイツは79.8kg、フランスは76.7kgであった。逆に最も軽いのはスイスの73.8kg。つづいてスウェーデンの75.5kgである。即ち、身長と比較して重量オーバーということはなくバランスのとれた適当な重量であるといえる。

6) 各国別の胸囲について表-7を参照にしながらみると、最大胸囲はスペインのテンデ選手の125cm、最小胸囲はスウェーデンのリンドベリー選手の85cmである。

最も多いのは95～99cmが24名で31.1%。つづいて100～104cmが18名の

表-7 <各国別の胸囲>

胸 囲 国 名	115cm 以上	114 ～110	109 ～105	104 ～100	99～95	94～90	89～85	80cm 以下	合計	平均 (cm)
オーストリア	0	0	0	0	1	2	1	0	4	90.8
ベルギー	0	2	0	3	3	4	0	0	12	97.8
フランス	0	0	0	2	7	1	0	0	10	97.8
西ドイツ	0	1	3	2	2	0	0	0	8	104.4
オランダ	0	3	1	2	1	0	0	0	7	105.3
スペイン	2	2	0	1	1	1	0	0	7	109.0
スウェーデン	0	0	0	4	3	3	1	1	12	95.7
スイス	0	0	3	0	3	2女 (1)	0	0	8	99.5
イギリス	0	0	1	4	3	1	0	0	9	98.9
計	2	8	8	18	24	14女 (1)	2	1	77	99.9
%	2.6	10.5	10.5	23.3	31.1	18.1	2.6	1.3	100.0	

23.3%，90～94cmが14名の18.1%となっており，全体の平均は99.9cmである。

さらに，国別において最も大きいのはスペインの109cmであり，つづいてオランダの105.3cm，西ドイツの104.4cmであった。反対に最も小さいのはオーストリアの90.8cmであり，つづいてスウェーデンの95.7cmという傾向となっている。

7) 各国別の足のサイズについて表—8を参照にしながらみると，最も大きいのはスペインのテンデ選手の30cm，逆に最も小さいのはベルギーのデュポン選手ら他2名の25cmである。

最も多いのは27cmの34名で44.1%であり，つづいて28cmの25名で32.5%。29cm以上が6名7.8%おり，26cm以下は8名10.4%しかみられず，全体の平均は27.4cmであった。

また，国別においては，最も大きいのはスペインの23.1cm，つづいて西ドイツの27.6cmであり，逆に最も小さいのはスイスの26.6cm，つづいてオランダ

表-8 〈各国別の足サイズ〉

足サイズ 国名	足サイズ										合計	平均 (cm)
	30cm	29	28.5	28	27.5	27	26.5	26	25.5	25		
オーストリア	0	1	0	2	0	0	0	0	0	1	4	27.5
ベルギー	0	1	0	3	0	6	0	1	0	1	12	27.2
フランス	0	0	0	5	0	5	0	0	0	0	10	27.5
西ドイツ	0	1	0	3	0	4	0	0	0	0	8	27.6
オランダ	0	0	0	2	0	3	0	0	2	0	7	26.9
スペイン	1	1	0	2	1	2	0	0	0	0	7	28.1
スウェーデン	0	1	0	5	0	5	0	1	0	0	12	27.5
スイス	0	0	0	2	0	3	1	0	1	1女 (1)	8	26.6
イギリス	0	0	1	1	1	6	0	0	0	0	9	27.3
計	1	5	1	25	2	34	1	2	3	3女 (1)	77	27.4
%	1.3	6.5	1.3	32.5	2.6	44.1	1.3	2.6	3.9	3.9	100.0	

ダの26.9cmという傾向となっている。

一般的にみると、体格面においては日本人の平均的な体格に比べて非常にすくね且つ均整がとれているといえる。

- 8) 各国別の剣道のスタート年齢について表-9を参照にしながらみると、まず剣道スタート年齢においては最高年齢はベルギーのフォンテーヌ選手の40歳、最低年齢は同じくベルギーのパスカル選手の10歳である。

20~24歳までが最も多く31名の40.4%、つづいて25~29歳と15~19歳までの18名の23.3%となっており、全体の平均は22.7歳となっている。

なお、これは6年前(1980年)に調査し、「欧州における剣道の実態調査研究」(明治大学教養論集・通巻164号体育学)に発表した10ヶ国、328名を調査した結果の24.8歳に比べて約2歳若い傾向となっている。

また、国別において最も剣道スタート年齢が早いのは西ドイツの20.5歳(6年前23.8歳)、つづいてスウェーデン・スペインの20.9歳となっており、

表-9 <各国別の剣道スタート年齢>

年令 国名	14歳 以下	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40歳 以上	合 計	平均年令
オーストリア	0	1	0	3	0	0	0	4	25.0
ベルギー	2	2	3	1	2	1	1	12	24.3
フランス	1	1	7	1	0	0	0	10	21.5
西ドイツ	0	2	5	1	0	0	0	8	20.5
オランダ	0	1	3	3	0	0	0	7	23.4
スペイン	0	4	1	2	0	0	0	7	20.9
スウェーデン	0	5	5	1	1	0	0	12	20.9
スイス	1	1	1	4女 (日本)	1 (日本)	0	0	8	24.1
イギリス	0	1	6	2	0	0	0	9	23.2
計	4	18	31	18	4	1	1	77	22.7(歳)
%	5.2	23.3	40.4	23.3	5.2	1.3	1.3	100.0	

逆に年齢が高く最も遅いのはオーストリアの25歳、つづいてオランダの23.4歳、イギリスの23.2歳となっている。

またフランスは以前27.6歳であったのが21.5歳と約6歳もスタート年齢が低い傾向を示し他の国々に比べて最も若年化が顕著である。

なお全般的にみても、各国ともに徐々に若年化の傾向がみられる。

9) 各国別の剣道の修業年限について表-10を参照にしながらみると、最年長はイギリスのホプリン選手の21年、最年短はオーストリアの選手の1年以内である。

最も多いのが4～5年の18名23.3%。つづいて6～7年の14名18.2%。2～3年の13名16.9%となっており、14年以上が5名6.6%おりその内イギリスが3名を占めている。

また、国別についてみると最も長いのがイギリスの12年、つづいてフラン

表-10 〈各国別の剣道修業年限〉

年 限 国 名	1年 以内	2～3	4～5	6～7	8～9	10～11	12～13	14年 以上	合計	平均 年限
オーストリア	1	1	1	0	0	0	0	1	4	7.1
ベルギー	0	4	4	0	2	0	(女) 2(4)	0	12	5.0
フランス	0	0	1	2	0	4	2	1	10	10.0
西ドイツ	0	1	4	1	2	0	0	0	8	5.4
オランダ	0	0	3	3	0	1	0	0	7	6.3
スペイン	0	1	1	2	1	1	1	0	7	7.6
スウェーデン	0	6	2	1	3	0	0	0	12	4.8
スイス	0	0	3	3	1	1	0	0	8	6.8
イギリス	0	0	0	1	2	2	1	(女) 3(8)	9	12.3
計	1	13	18	14	11	9	6	5	77	7.3年
%	1.3	16.9	23.3	18.2	14.3	11.7	7.8	6.6	100.0	

(カッコ内途中中止者と年限)

表-11 <各国別の出場者の道場名及びその人数と稽古回数及び時間>

道稽古 場名	道場名・数及びその人数	週1	週2	2	3	4	5	5~	1回平均稽古回数	1回平均稽古時間	
		回	回	~3	~4	~5	6	6回	稽古時間		
オーストリア	(1) ・ビエンナ・オーストリアン剣道協会④ (内1人パリでも)	0	4	0	0	0	0	0	2.0	2時間	
ベルギー	(4) ・Yû-Hi剣道クラブ⑤ ・武徳館ブリュッセル③ ・剣道гент③ ・アントワープ剣道会①	0	8	1	3	0	0	0	2.3	1時間45分	
フランス	(6) ・武道クラブパリ② ・CEPEJJA② ・メゾナフィットクラブ② ・雷鳴館① ・モンフォールラモリー① ・リール剣道クラブ①	0	5	0	1	2	0	0	3.5	2時間	
西ドイツ	(3) ・ベルリン剣道クラブ⑥ ・フランクフルトクラブ① ・ケルンクラブ①	0	1	0	7	0	0	0	2.9	2時間	
オランダ	(3) ・無声堂アムステルダム③ ・不滅ロッテルダム③ ・不動心ヘーレン①	0	3	0	2	0	2	0	2.9	2時間	
スペイン	(5) ・晴天パロセーナ② ・セントジョルディパロ② ・ジュディシエンマドリッド① ・クラブジュードマンレサ① ・以心伝心武徳館(ブリュッセル)①	1	0	1	1	3	0	0	3.0	1時間45分	
スウェーデン	(7) ・武道会ストックホルム③ ・ストックホルムスウェーデン② ・リードテ武道クラブストック① ・VÅSBYケンダークラブ② ・GAK Enighet マルナ② ・SSIF ジョハネスコーラクラブ① ・武道館ヴィリングビクラブ①	0	2	1	5	2	1	0	3.1	1時間45分	
スイス	(4) ・武道館チューーリッヒ④ ・剣道ベルン修武館(日本人2名)② ・修道館ジュネーブ① ・練心道場①	0	3	1	4	0	0	0	2.6	1時間30分	
イギリス	(6) ・葉隠・栄信館ロンドン① ・フジゲン道場① ・剣聖会道場② ・無名士道場② ・大成道会グラスボー② ・二城剣道クラブドラム①	0	1	2	2	0	2	0	3.4	1時間30分	
計	39 道場	1	27	6	25	7	5	0	2.5	1時間44分	
%		1.3	35.5	7.8	32.5	9.1	6.5	0	5.2	2.6	100.0

スの10年となっており、全体の平均は7.3年である。

この修業年限は以前の前記調査結果の3.7年に比較して2.6年長く延びており、望ましい傾向となっている。

10) 各国別の出場者の道場名及びその人数と一週の稽古回数及び時間について表-11を参照にしながらみると、全体では39の道場(クラブ)から今大会

に出場しており、最も多いのはスウェーデンの7つの道場（クラブ）からで12名という出場人数からも当然多くなるが、10名以上のメンバーが揃えばそのスポーツ団体に政府から援助金がでるといふ社会福祉制度が発達した恵まれた国の特殊事情がその背景にある。

しかし、その反面、少人数のグループに直ぐ分散してしまい、合同で練習を行う機会を作るのがむづかしく、また協力体制をとりにくくなる欠陥がある。またこのような点が今後の普及発展のための課題と指摘される。

つづいてフランス・イギリスの両国の6つの道場（クラブ）からで両国ともに全国各地の道場（クラブ）からにわたっている。

西ドイツとオランダは3つの道場から、団体初出場のオーストリアはただ、1つの道場からである。

各道場（クラブ）での1週の稽古回数で最も多いのは2回の27名35.0%。つづいて3回の25名32.5%である。週4回以上は稽古している者は11名おり、5～6回はフランスに2名いる。また、週1回はスペインの1名だけである。

さらに国別において最も多いのはフランスの1週平均3.5回で、1回の稽古時間の平均が2時間である。

つづいてイギリスの1週平均3・4回であるが、1回の稽古時間が平均1時間30分と短い傾向となっている。

そして西ドイツは1週平均2.9回であるが1回の稽古時間の平均がフランスと同様に2時間と長い傾向を示している。

最も1週の稽古回数の少ないのはオーストリアの2回であり、平均稽古時間2時間。つづいてベルギーの1週2.3回で平均1時間45分の稽古時間となっている。

各国全体の1週の稽古回数の平均は2.5回であり、またその1回の稽古時間の平均は1時間44分という結果となっている。

また、定期的に日本人指導者の長期派遣を招聘してきている国はフランス・西ドイツ・スウェーデンの3ヶ国だけであり、この3ヶ国においてはこの指導者が派遣された期間だけ各地の各道場（クラブ）を巡回し指導している

がこれだけでは正しい普及発展のためには充分とはいえない。

そして、講習会・春・夏合宿および寒稽古などを計画実施している国はフランス・西ドイツ・イギリスなど1部の国々に限られているのが現状である。

さらにまた、実質的にはヨーロッパの人々は夏のバカンス（7～9月）、冬のクリスマスシーズンなど長期間の休暇をとる長年の習慣がある。そしてその期間は同時に学校の施設などを借用して稽古している道場（クラブ）は完全に使用することができないという事情がある。

このように日本に比較して一週2.5回、1時間44分の稽古回数と時間では充分とはいえない上に、このような現状と指導者不足などの状況から判断すると急速の成長を期待するのは困難であり、その指導には忍耐が必要とされる。このようなことが発展のための大きな障害であり、また解決されなければならぬ大きな課題でもある。

表-12 〈各国別出場者の得意技〉

技 国名	面	小手	胸	突	出端 面	払い	抜き	連続	退 き	出 小手	すり 上げ	応 返し	鎧 せり	な し	合計
オーストリア	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
ベルギー	2	2	0	0	2	1	3	0	0	0	1	0	0	1	12
フランス	3	1	0	0	1	1	0	3	0	0	0	1	0	0	10
西ドイツ	1	1	0	0	3	0	0	1	0	1	1	0	0	0	8
オランダ	1	0	0	0	2	0	0	0	0	3	0	0	0	1	7
スペイン	0	0	0	0	0	1	0	1	1	3	0	0	0	1	7
スウェーデン	4	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	4	12
スイス	2	0	0	0	2	0	1	1	0	2	0	0	0	0	8
イギリス	0	2	0	0	0	0	3	1	0	1	0	1	1	0	9
計	17	7	0	1	10	4	8	7	1	10	2	2	1	7	77
%	22.1	9.1	0	1.3	13.0	5.2	10.5	9.1	1.3	13.0	2.6	2.6	1.3	9.1	100.0

11) 各国別出場者の得意技について表一12を参照にしながらみると、面（攻めて面・跳び込み面など）で17名22.1%，つづいて出端面と出小手が10名の13.0%となっており、面と出端面を合わせると27名で35.1%と全体の約3/5を占めている。

さらに抜き技を得意とする者のすべてが抜き面であり、8名の10.5%と多く、体格に恵まれしかもリーチがあるので抜き技が有効となると推察され、前記の面技と合わせると45.6%となり全体の約半数を占める。

また、出小手も10.3%と多くみられたが、これらの傾向は面技が得意という逆の傾向として出小手が多くなり、しかもその面技の起りが特に大きい場合に出小手を打たれ易いためと考えられる。

国別にみると、オランダ・スペイン・スイスに出小手を得意とする傾向が顕著にみられた。

その他、払い技、すり上げ技、応じ返し技を得意とする者はほんの僅かしかみられず、胴技は全くみられなかった。

連続技では小手から面の2段技が最も多くて6名。突から胴が1名で合せて9.1%であったが、国別にみるとその内の約半数をフランスが占めていた。

また、西ドイツは出端面を最も得意とし、小手から面の連続技、小手すり上げ面、出小手を得意技に挙げている。

しかし、全体でまだ得意技がないという者が7名で9.1%いる点にまだ技術的な未熟さと自信のなさを窺い知ることができる。

12) 各国別出場者の不得意技について表一13を参照にしながらみると、胴技が28名、36.3%と最も多く、これに対して面技が全くみられなかった。

つづいて抜き技が8名、10.5%で、その内訳は抜き胴がその全体を占め、前記の胴技と合わせると46.8%と全体の約半数を占めていた。

さらに、すり上げ技が同じく8名、10.5%であり、払い技と返し技が各5名の6.5%であった。また、不得意技が沢山あると回答した者も同じく5名の6.5%いた。

表-13 〈各国別出場者の不得意技〉

技 国名	技															合計
	面	小手	胴	突	出 小手	払 い	抜 き	連 続	退 き	打 落し	す り 上 げ	返 し	片 手	沢 山 あ る		
オーストリア	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	
ベルギー	0	1	4	0	0	2	面抜胴 1	0	0	0	3	1	0	0	12	
フランス	0	0	5	1	1	面払面 1	面抜胴 1	0	0	0	1	0	0	0	10	
西ドイツ	0	0	4	0	0	払面 1	面抜胴 1	0	0	0	1	1	0	0	8	
オランダ	0	0	3	0	0	0	1	小手→ 胴	1	0	0	1	0	1	7	
スペイン	0	0	1	0	0	0	面抜胴 3	2	0	0	0	1	0	0	7	
スウェーデン	0	1	4	0	2	払小手 1	0	0	0	0	1	0	0	3	12	
スイス	0	0	2	0	0	0	面抜胴 1	胴	1	退 2	0	1	1	0	8	
イギリス	0	0	胴 2	2	0	0	0	0	1	1	0	1	2	0	9	
計	0	2	28	3	3	5	8	4	3	1	8	5	2	5	77	
%	0	2.6	36.3	3.9	3.9	6.5	10.5	5.2	3.9	1.3	10.5	6.5	2.6	6.5	100.0	

このような傾向の原因としては技術的には肩に力が入り、また手の内も固いので竹刀に触れる技や細かい技、特に横技が不得意となっているといえる。

加えて、稽古回数にその量と質の問題、指導者問題。さらに体格に防具が合わない。特に手が大きいのに比べて日本製の小手が小さいし、また高価な良い小手を買えないので、手の内の作用が十分にできないこともその要因として考えられる。

なお、前回の第6回大会の調査結果では面・40.8%、小手50.0%、胴3.4%と面技を得意技としながらも取得部位では小手の方が多いという傾向となっていた。さらに胴についても3.4%と僅かしかみられず、胴技が不得意技となっていた結果と同様で変化はみられなかった。

- 13) 道場の床の材質およびそのコンディションと道場の人数及び有段者数、
さらに、道場までの利用交通機関とその所用時間などについてまとめた表一

表-14 〈各国別の道場の床質及びコンディションと

道場床質 人数コン デション など 国名	道場の床質						道場のコンディション						
	木 板	合 成 板	ラ バ ー	ラン バ ー ・ コ ド	コン ク リ ー ト	タ タ ミ	と と も 良 い	良 い	ま あ ま あ 良 い	普 通	悪 い	と と も 悪 い	そ の 他
オーストリア			○						○				とても小 さい
ベルギー	○○	○		○				○○			○○		下コンク リートの かたい
フランス	○○○ ○			○○			○	○○		○		○	かたく 小さい かたい
西ドイツ	○○○							○	○				かたい
オランダ	○				○○		○					○○	かたく せまい かたい
スペイン	○ ○	○	○			○		○		○	○	○	かたい やわらか すぎ かたくす こし低い
スウェーデン	○○○ ○ ○ ○	○	○				○	○ ○ ○ ○	○	○			かたい かたい 天井低い
スイス	○○○ ○		○					○○ ○	○				少し かたい せまい
イギリス	○○○ ○ ○ ○ ○							○ ○ ○	○	○		○	少し かたい せまい 大き かたく せまい
計	26	3	6	1	2	1	4	15	5	5	5	5	
%	66.7	7.7	15.4	2.6	5.2	2.6	10.3	38.5	12.8	12.8	12.8	12.8	

14を参照にしながらみると、まず出場者の所属する道場の床の材質については39道場中26道場66.7%が木板で予想に反して木板が多かった。

その他、ラバーが6道場で15.4%とつづき、コンクリート及びコンクリートラバーが3道場で7.8%、畳が1道場となっており、日本のように全部が

道場人数及び有段者数と道場に行く方法及び時間

道場 人数	有 段 者 数	道場までの時間(分)	行 く 方 法					合 計	
			車	バ ス	地 下 鉄	汽 車 電 車	モ ト バ イ ク		徒 歩
30	3	45. 30. 30. 20.	4						4
30 15 20 30	10 3 5 6	30. 30. 20. 15. 45 50. 25. 20. 30. 40. 10. 15	4 3 1 1	1			1		12
35 50 30 40 20 50	15 20 10 15 8 10	20. 20 45. 30 10. 30. 20 15 15	2 1 1 2		1			1 1	10
45 15 20	18 5 5	50. 30. 30. 20. 20. 20 30. 30.	4 1				2 1		8
35 22 6	14 7 2	60. 30. 30 30. 15. 10 10	3 1 1	1	1				7
25 12 20 8 15	6 3 4 1 3	30. 30 30. 30 45 35 40	1 1	1	1 △と△	1		1	7
35 25 12 15 20 25 12	4 5 3 3 8 4 3	45. 45. 30. 30 20. 30. 45 30 30. 60. 22. 90. 45.	1 1 1 1	2 1 △ △1	3 と と	△ △			12
50 30 14 25	8 3 5 4	6. 20. 20. 90 20. 30 30. 15.	3 1 1			1	1 1		8
25 12 50 12 10 14	7 5 15 10 3 3	45 30 15. 30 15. 30 20. 45 30	1 1 1 2 1				1	1	9
959	266	最 長 90 分	45	10	7	5	7	4	77
(27.7)		最 短 6 分	58.4	11.0	3.4	6.5	8.4	5.2	100.0

(平均30.2分, △は両方使用)

木板という訳にはいかない現状である。

また、そのコンディションについては日本人との感覚の相違もあるが、“とても良い”が4道場、“良い”が15道場、“まあまあ良い”が5道場となっており、39道場中24道場61.6%と過半数以上が満足している。しかし、ま

だ“悪い”，“とても悪い”が各5道場で計10道場25.6%あり，まだ全体の¼の道場のコンディションは悪い。またその内容についてはその殆どが床質が固く，しかも小さく狭いという状態である。さらに，天井が低いという道場が2つあった。また畳の上で練習している道場の逆に柔らか過ぎるため踏み込み，足捌きが上手にできないというものもある。

一般的に当初の予想よりも床質においては木板が多く，そのコンディションにおいてもまあまあ良好という結果がでており，以前に比べてはよくなっているといえる。

しかし，剣道の専用道場はフランスの1道場だけであり，その殆どが学校及び公共の体育館を借用しているのが現状である。またヨーロッパ人が“良い”と回答しても日本人との感覚の相違もあり，日本のようにスプリングのある道場は全くなく，その代り39道場中37道場がセントラルヒーティングである。さらに日本と異なり，ヨーロッパでは体育館において土足の習慣があって，非常に床質も悪くまた汚れており，素足で行いすり足・足捌きなどが重要な剣道においてはこの点が技の習得などに悪影響を及ぼしていると推察され，これも昔友発展のための難題の1つに挙げられる。

所属する道場の人数及び有段者数においては，道場の人数で最も多いのはフランスのパリにある“CEPSJA”道場の50名でその内有段者が20名となっており，つづいてスイスのチューリッヒにある“武道館”道場の同じく50名でその内有段者8名・イギリスのロンドン郊外の“剣聖会”道場の同じく50名でその内有段者15名となっており，さらに西ドイツのベルリンにある“ベルリンクラブ”道場が48名でその内，有段者数18名などとなっている。

以上の道場などは恵まれた環境にある。しかしその反面，まだまだ道場に有段者が1～3名程度でその者が指導も兼務するなど少人数のところが多く，稽古相手にも不足するし質的にみてもまだまだ不十分である。このように今後解決されなければならない課題がまだまだ多い。

さらに道場までの利用交通機関とその所用時間については，利用交通機関は自動車が最も多く45名の58.9%で，つづいてバス10名，11.0%，地下鉄・

モーターバイクが各7名, 8.4%, 徒歩が4名, 5.2%となっている。

また道場までの所用時間は最長がスイス・スウェーデンの1時間30分で、最短はスイスのチェーリッヒの6分である。また全体の平均は30.2分であった。

しかし、ヨーロッパは道路交通事情がよい上、高速道路に恵まれハイスピードでとばすので距離的には日本よりも遠いといえる。しかし以前の調査では道場までが遠距離であることが課題であったり、当初もっと遠く不便なのはと予想していたが、今大会出場者については反して以外と便利でそれ程、不都合な条件とはなっていなかった。

- 14) 「剣道を志す前に何か他のスポーツを経験していたかどうか」について表一15を参照してみると、柔道が24名・25.5%, 空手13名・13.8%, 合気道7名・7.4%であり、合すると46.7%で約半数の者が剣道を志す以前に武道を経験している。国別にみると、特にフランス・オランダにその傾向が強い。

その他では、サッカー9名、バスケット5名、ラグビー・テニス各3名などとヨーロッパで盛んな球技の経験者が多い。

また、以前全くスポーツの経験がない者は11名・11.7%いる。

さらに、「現在、剣道以外に他のスポーツをやっているか」については、剣道を始めてから他のスポーツをやっていない者が14名・51.3%と過半数を占めていた。

しかし、新たに居合道を志すようになった者が11名・13.8%と増加してきたのが注目される。

以前、多かった武道については柔道・空手・合気道を続けている者がなお5名・6.3%おり、他のスポーツに代ってテニスだけは5名に増加し、アスレチック体操・ジョギング・クロスカントリー・スキー・スカッシュ・セーリングなどを行う者がでてきている。

これらの傾向は剣道の1週の稽古回数が少なく、休暇が長い上に、体力的にも恵まれているので、剣道を志しても他のスポーツをも楽しむ余裕がある

と考えられる。

そして、防具・竹刀の入手方法については、防具においては日本から直接送付して貰う或いは、剣友が来日した際に購入して来て貰う者が45名・58.4%と過半数以上を占め、その国の店で購入する者はフランスに8名、日本の先生或いは友人から購入する者も同じく8名いる。その他日本人からのプレゼント4名、借用している者1名などとなっている。

また、竹刀の入手方法については防具に比べて日本から直接購入する者が33名・42.9%に減少し、その国或いはヨーロッパ、特にフランスにある武道具店で購入する者が20名・25.9%いる。また道場・クラブから14名・18.2%などとなっている。

このように、まだ、防具、竹刀の入手方法についてはその大部分が日本に依存しているのが現状である。故にその送付方法及び期間と関税問題などが今後の重要な課題として考えられる。

- 15) 出場者の各試合経験の有無とその感想及び来日の経験の有無と回数・期間・目的などについては、まず世界選手権大会参加の有無においては77名中49名の63.6%が経験有りと回答している。これは、1985年に第6回大会がパリにおいて開催されている関係で高率を占めた。

またヨーロッパ選手権大会参加の有無においては全員が経験有りとなっているがその内の初参加が19名の24.9%を占めていた。

さらに、国内選手権大会においては77名中の66名の85.7%が参加の経験を有している。

その他の大会の参加経験の有無については77名中の52名が有りと回答し、その大半が無名士シティリンク・ロンドン大会であり、その他はイタリア・スペイン大会となっている。

また、剣道以外の大会参加の経験有りと回答した者が27名の51.9%もあり、その内訳は、武道においては柔道大会4名、空手・合気道大会各1名であり、他のスポーツにおいてはスキー大会が最も多く4名。つづいてサッカー

ー・テニスの各3名。ラグビー2名とヨーロッパで盛んなスポーツへの大会に積極的に参加している姿勢が窺われる。その他変わったところではキックボクシング・ボクシング・アイスホッケー大会各1名などの経験者がいる。

またその試合参加の感想については、“大好きである”、“すばらしい”、“興奮する”、“良い経験となる”、“他国の剣道家と会え、一緒に練習できる”、“友人をつくる良い機会である”、“友好親善”、“楽しめる”、“全力を尽くす勝敗は問題ない”、“良い汗を流すことができる”などという感想が多く勝敗に対する回答は少なく、技術的面よりもむしろ精神的面の希求の傾向が強いことが窺われる。

さらに、来日経験の有無とその回数・期間・目的などについては、まず来日経験は77名中47名の61.0%と出場者の過半数以上が来日の経験を有している。

また、その内の30名の39.0%が北本で行われる全剣連主催の外国剣士剣道研修会に参加しており、研修会の成果は多大といえる。

そしてその回数及び期間については1回が25名・2回10名で5回以上が6名いる。なお、イギリスでは9回と8回の来日経験を有する者が各1名いる。

期間については1ヶ月から3ヶ月が最も多く、つづいて1年以上、最も長い者で6年である。

国別においてはイギリスでは12名中10名、フランスで10名中8名、西ドイツで8名中5名の者が来日経験があり、強豪国ほど多数を占めていた。また、その来日回数も多く期間も長いという傾向となっている。

来日の目的については“剣道修業のため”がその殆どで、“仕事で”という者もいるが、剣道だけではなく“日本の文化を知るため”という者が以外と多かった。

スペイン				7
西ドイツ				8
スウェーデン				12
スイス				8
イギリス				9
計	24, 13, 7, 1, 9, 3, 2, 5, 1, 3, 1, 2, 1, 1, 3, 2, 1, 2, 2, 11 (8) (6) (3) (3) (1) (2) (2) (1) (2) (1) (1) (1) (1)	3, 3, 2, 11, 2, 1, 1, 1, 5, 1, 1, 2, 1, 1, 2, 1, 2, 41 (2) (2) (2) (5) (2) (1) (1) (2) (1) (2) (1) (1) (1)	45, 8, 8, 8, 3, 3, 4, 1, (33, 20, 3, 14, 7	77
%	●● 13 ●●● 2 25.5 7.4 13.8 1.1 3.2 5.3 3.7 2.1 1.1 2.1 2.1 11.7	(94) ●● 8 ●●● 113.8 1.3 1.3 6.3 1.3 1.3 2.5 2.5 ●●● 3.8 3.8 2.5 2.5 1.3 1.3 2.5 1.3 1.3 51.3	58.4 10.4 3.9 1.3 42.9 3.9 9.1 10.4 10.4 5.2 25.9 18.2	100.0

来日の経験と回数・目的					合計
北研 本外 国会 人	日有 本無 来国 の	回 数	期 間	目 的	
○ × × ×	○ × ○ ×	2 0 1 0	各1ヶ月 5週間	・剣道修業—北本研修第4回世界大会（札幌） ・九州で剣道修業	4
○ ○ × × × × × × × × × ×	○ ○ ○ × × × × ○ × × × ○	6 3 1 0 0 0 1 0 0 0 1	1ヶ月2回と1ヶ月 各2週間 3ヶ月 3ヶ月 3ヶ月 6ヶ月	・第4回世界大会（札幌）と剣道修業（北本） ・仕事と剣道修業 ・剣道修業のため ・剣道修業と日本の文化を知るため ・剣道修業（九州）	12
× × ○ × × × ○ × ○ ×	○ ○ ○ ○ ○ × ○ ○ ○ ○	1 1 1 2 3 0 1 1 1 1	21日 3週間 1ヶ月 各1ヶ月 6ヶ月3ヶ月、3 ヶ月 1ヶ月 1ヶ月 3ヶ月	・第4回世界大会（札幌） ・剣道修業と日本の文化を知るため ・剣道修業と観光 ・剣道修業と日本の文化を知るため ・剣道と居合の修業のため ・第4回世界大会（札幌） ・剣道修業（北本研修）と日本の文化を知るため ・剣道修業（北本研修）と日本の文化を知るため ・剣道修業のため	10
○ × ○ × × ○ ×	○ × × ○ ○ ○ ×	1 1 0 1 0 1 1 0	6ヶ月 3ヶ月 4ヶ月 3ヶ月	・剣道修業（北本研修） ・剣道修業と日本文化を知るため ・剣道修業と観光 ・剣道修業と日本文化を知るため	8
○ ○ ○ × ○ × ×	○ ○ ○ × ○ × ×	4 2 2 0 2 0 0	1年と3ヶ月など 6ヶ月と2ヶ月 各1ヶ月 3ヶ月と1ヶ月	・剣道、居合、杖道修業のため ・剣道修業と日本の文化を知るため ・剣道修業と昇段審査 ・日本の文化を知るため ・剣道修業（北本研修）と観光	7
○ ○ ○ × × × ×	○ ○ ○ × × × ×	2 1 1	各1ヶ月 1ヶ月 1ヶ月	・第4回世界大会（札幌） ・剣道修業（北本） ・第4回世界大会（札幌）	7

項目 国名	試合経歴				→どの様な大会か	試合についてどう思うか
	世界大会 選権大会	ヨーロッパ 選手権大会	国内選手権	その他の大会		
スウェーデン	× ○ ○ ○ × × × × × ×	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ × ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	テニス大会 クリスマスカップ ストックホルム大会 ク ク サッカー大会 テニス大会 アイスホッケー大会	・試合経験はとてもおもしろい ・私は試合が闘志がわき、大好きである ・他国の剣道家と会え、練習できる良い機会である ・興奮しドキドキする ・私は試合が大好きである ・友人をつくる良い機会である ・すばらしい剣友がくれる ・良い経験である ・すばらしい友好親善も楽しい ・他国の剣道家と会え、良い友人をつくる良い機会である
スイス	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	シテリリンクロンドン大会 ク ク ク ク ク スキー大会	・私は大好きである ・他国の剣道家に会える良い機会と自分の力を試せる ・疲れるがおもしろい ・健康的・非常に興奮する ・良い友人をつくる良い機会である ・すばらしい友人に会え、友好親善ができる良い機会である ・他国の剣道家と知り合え共に練習できる
イギリス	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	シテリリンクロンドン大会 ク ク ク ク ク 卓球大会 ク ク ク ク	・剣道発展のために重要である ・すばらしい興奮をする ・他の剣道家に会え、すばらしい友人をつくれる ・私は個人戦は好きだがチームが好きでない ・友好親善の場 ・自分の力を試めず、良い機会である ・私は試合が大好きである
計	49	77 初=29	66	52 他=27		
%	63.6	初24.6	85.7	67.5 他51.9		

IV. まとめ

- ①出場者の技術レベルは前回に比べてわずかに上昇の機運が窺われる。
- ②出場者の身長・体重・胸囲・足サイズなど体格面においては日本人に比べて非常にすぐれており且つ均整がとれている。
- ③一週の稽古回数及び時間については平均2.5回、1回の稽古時間は平均1時間44分であった。しかしヨーロッパでは休暇が長期間にわたるので実質的には充分といえず急速の発展成長は困難と推察される。故に長期的展望にたった指導・尽力が不可欠で、意識改革及び道場借用なども今後の重要

来日の経験と回数・目的					合 計
北研 本修 外会 国人	有 無 日 本 来 国 の	回 数	期 間	目 的	
○ × ○ × ○ ○ ○ × × × ×	○ × ○ × ○ ○ ○ × × × ×	1 0 4 2 2 1 1 1 3	1ヶ月 新2年半ヶ月 各1ヶ月 各1ヶ月 1ヶ月 4週間 3ヶ年 2ヶ年 1ヶ月	・第4回世界大会（札幌）と北本研修 ・第4回世界大会（札幌）と北本研修 ・第4回世界大会（札幌）と北本研修 ・剣道修業と日本の文化を知るため ・剣道修業と観光 ・剣道と日本文化を知るため ・剣道修業 ・剣道と仕事	12
○ × ○ × × × ○ ×	○ × ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ×	6 3 0 1 × × 1 0	各1ヶ月 1ヶ月3週間 2ヶ月 2週間	・第4回世界大会（札幌）と北本研修 ・第4回世界大会（札幌）と武道修業 ・剣道と日本の文化を知るため ・スイス在住10年（日本人） ・スイス在住12年（日本人） ・剣道修業（北本研修）	8
× ○ ○ × × × × × ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ × ○ ○	8 2 1 1 9 2 0 0 1	計5年 各6ヶ月 1ヶ月 1年 6年 2年と6ヶ月 1年半	・剣道、居合の修業と鏝よろい勉強と見学 ・第4回世界大会（札幌）と北本研修 ・第4回世界大会（札幌）と北本研修 ・剣道、仕事、勉強 ・剣道、仕事、勉強 ・剣道修業と仕事と日本文化を知るため ・剣道修業 ・剣道修業と仕事	9
30	47	(1—25 2—10 2—4 4—2 5以上			77
39.0	61.0				

な課題である。

- ④得意技は面技であり、胴技を最も不得意としている。その他、払い技、すり上げ技、返し技なども同様に不得意技に挙げられる。

これらの要因としては稽古回数及び時間も少ないという稽古の内容、即ち量と質的な問題。そしてヨーロッパ人は上腕の力が強く、肩に力が入り過ぎ、さらに手の内が固いなど技術的欠陥に加え、体格に比較して防具、特に小手が小さいことなどがその遠因として考えられる。

- ⑤道場の床材質及びそのコンディションについては満足とはいえないが全般的には予想に反して良い結果がでていた。また道場へ通うのが遠距離で不

便ではと懸念されたが今大会出場者においては平均約30分とそれ程支障がなかった。

⑥約半数の者が他の武道の転向組である。また防具及び竹刀などの入手方法は大半が日本に依存している現状である。故にその送付方法及び期間に加え、関税問題なども今後の重要な課題である。

⑦試合経験の有無については過半数以上が世界大会経験者であるが、その感想については技術的面よりも友好親善と良い友人をつくるよい機会と場であり、エンジョイできるなど精神的面の希求が強いことが窺われる。

また出場者の61.0%と過半数以上が来日の経験を有し、その目的は剣道修業と共に日本の文化を知る為という者が多い。

以上のようなヨーロッパ剣士の技術レベル・体格・施設設備・環境条件・意識などの実態を認識した上で、剣道の国際化へ向けての正しい普及と指導が望まれる。

2. Do you have an experience of taking part in Europe Championships?
(Yes, No)
3. Do you have an experience of taking part in National Championships?
(Yes, No)
4. Do you have an experience of taking part in other Games (Yes, No)
What? _____
5. What do you feel about Games?

6. Do you have an experience of taking part in Seminar for foreigners at
Kitamoto? (Yes, No)
7. Have you ever been to Japan?
(Yes, No)
- Yes ; How many times? _____
How long? _____
Purpose _____